

《2025年度入学生用》

情報学部

授業科目履修課程表

◆教育課程◆

- 【第Ⅰ群】
総合教育科目
- a) 総合文化科目
 - b) 外国語科目
 - c) 保健体育科目
 - d) キャリア支援科目

- 【第Ⅱ群】
専門共通科目
- a) 共通基礎科目
 - b) 専門基礎科目

- 【第Ⅲ群】
専門科目
- 専門科目（卒業論文を含む）

情報学部で何を学ぶか

情報学部は、高度情報社会に必要とされる、幅広い能力を持った人材を育成するために生まれた学部です。多様な情報であふれかえる現代社会の中で安全、快適に社会生活を送るには、情報コミュニケーション技術（ICT）が不可欠であり、あらゆる分野、場面で情報学とその関連分野が重要となっています。しかしながら、情報社会を支える技術者が不足しているのも事実です。このような社会の状況に対して、情報学部では実際の問題解決を通して学ぶ授業形態（PBL）や実験、演習などを積極的に取り入れた授業を行います。

情報通信工学科では、生活の利便性向上に寄与し地球規模での環境に優しい情報通信社会を実現するために、通信工学をベースとしたネットワーク技術、情報伝送に係わる情報メディア技術、省エネルギーと使い勝手に優れたスマートデバイス技術について、その動作原理から応用システムまで幅広く学修します。

コンピュータ科学科では、便利で安心安全な高度情報社会を実現するために、日々進化を続けるコンピュータシステムを使いこなすための、ソフトウェア開発、情報セキュリティ、コンピュータ応用の基盤技術を学修します。

情報デザイン学科では、人や産業・社会基盤に関わる様々な情報分野において、新しい付加価値を創造し、社会が求める「人に優しい情報技術」を提供できるように、人間情報、知識情報、コンテンツ設計分野に関わる技術を学修します。

情報科学科（旧 システム数理学科）では、実社会における課題を汎用的かつ創造的に解決する能力を修得することを目的に、必要なデータ科学（統計学、人工知能等）、情報インフラ（データベース、Web プログラミング等）、経営情報（企業システム、経済学等）の各分野における専門知識と活用方法を学修します。

学部卒業後は、ぜひ大学院へ進学し研究をさらに深く追究することを推奨します。学部卒業後あるいは大学院修了後は、情報ネットワークの構築、情報処理システムの構築、大規模ソフトウェアの設計、セキュリティ、デジタルコンテンツの制作、データサイエンス、マネジメント等あらゆる分野での活躍が期待されています。

《2025年度入学生用》

情報学部

各 学 科 共 通

【第Ⅰ群】

総 合 教 育 科 目

- a) 総合文化科目
- b) 外国語科目
- c) 保健体育科目
- d) キャリア支援科目

【第Ⅱ群】

専 門 共 通 科 目 ——— a) 共通基礎科目

注) 共通基礎科目の授業科目は、各学科の履修課程表
(カリキュラム表)の最初に掲載されている。

■情報学部教育課程の概要

情報学部では、1年次と2年次前期を共通履修期としており、各学科及び情報学部総合に入学した全学生が、同一のカリキュラムの下で学修する。共通履修期では、情報学のベースとなる基礎的な科目の重点的な学修のため、1年を4期に分けるクォーター制を採用している。

2年次後期～4年次には、学生は、それぞれのカリキュラムポリシーに対応した学科別カリキュラムの下で学修するとともに、研究室単位での「卒業論文(PBL)」(4年次)を履修する。各学科のカリキュラムの詳細はそれぞれの学科のページに記載されている。

■情報学部教育課程の科目群

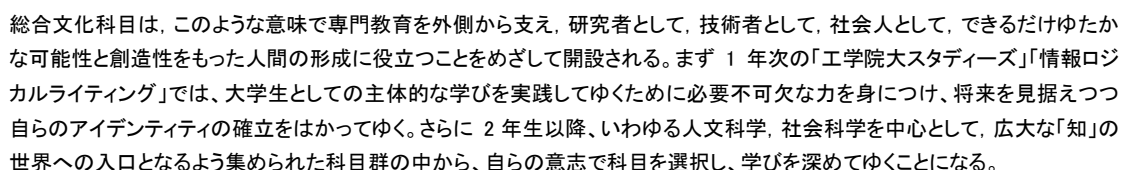
情報学部教育課程は次の3本の柱で編成されている。

- 1) 第Ⅰ群「総合教育科目」
- 2) 第Ⅱ群「専門共通科目」
- 3) 第Ⅲ群「専門科目」

第Ⅰ群「総合教育科目」は、社会人として、技術者として、研究者として、豊かな可能性と創造性を持った人間の形成に役立つことを目指して設置されており、人文科学分野、社会科学分野、コミュニケーション分野、保健体育分野を中心に、幅広い科目が開設されている(より詳しくは後述する)。なお、これらの分野の科目は、従来、一般教養科目と呼ばれ、1、2年次に集中して学ばれることが多かったが、本学ではこれらを「総合教育科目」として1年次～4年次に分散開設し、一般教養教育と専門教育を有機的に結びつけて、専門だけに偏らない、全人格的な情報のプロフェッショナル育成という目標を達成できる教育プログラムを構築している。

第Ⅱ群「専門共通科目」は、情報学を学ぶ者が、将来どのような方向に進むかにかかわらず必要とする基礎的な素養を身につけるために設置されている。「専門共通科目」は、a)「共通基礎科目」とb)「専門基礎科目」に分かれている。「共通

学年進行と科目群の関係は次の図のようにまとめられる。なお、3年次科目履修条件、卒業論文着手条件、卒業条件については、各学科の履修規定を参照すること。



b)外国語科目

新しい国際化時代に対応し、幅のあるコミュニケーション技能を養うために、体系的かつ柔軟性を持たせたカリキュラムを編成している。

具体的には、卒業条件の8単位のうち、6単位は必修英語の科目で取得し、残り2単位は選択必修の科目から取得する。

必修の英語科目は、グローバル社会で活躍するための総合的な力を養うべく言語諸技能の有機的な教育を目指しており、1、2年次に受講する3つの必修英語科目では次のようなことに重点が置かれている。「Basic English I/II」（1年次）では、英語でたくさんの input を得る活動（主に reading）を通して、コミュニケーションの基礎となる語彙・文法・構文の習得を目指す。「Basic Communication I/II」（1年次）は自分の意見を英語で論理的に伝えることができるようになるための output 活動（パラグラフライティング）を通して、総合的に英語コミュニケーション能力を伸ばすことを目標としている。「Basic Academic English I/II」（2年次）では、現代社会における諸問題について input を得る活動を行うとともに、それぞれの問題に対して自分の意見を英語で論理的に伝えることができるようになるための output 活動（エッセイライティング）を通して、受信型・発信型両方のコミュニケーションスキルを養う。

選択必修科目には、「応用英語」として「Introduction to English for Global Communication I/II」「English for Intercultural Communication A/B」や、夏期と春期にアメリカの提携大学の大学生との交流を行う「English for Global Communication A/B」を設置し、学生の積極的履修を求めている。また第二外国語として「ドイツ語」・「フランス語」・「中国語」・「中国語集中講座」「ロシア語」、また日本語を母国語としない学生のためには「日本語」を設置している。

情報化時代の中で、外国語運用能力の重要性はますます高まってきている。語学学習の場として、積極的に履修してもらいたい。

c)保健体育科目

十分な身体活動は、健全な発育発達や心身の健康の保持増進に必要不可欠である。身体活動の実施によって、生活習慣病が予防され、うつや不安の症状が軽減されるとともに、思考力、学習力、総合的な幸福感を高められるとされている。また、運動・スポーツの実施により体力が向上し、筋肉、骨、関節といった運動器の障害を予防することができる。さらに、自己の内面を観察し、心身のバランスを整える能力を高めるとともに、個における忍耐力やあきらめない心、グループにおける協調性や優しさを学ぶことにより、コミュニケーション能力を高め、活力あふれる社会人になることが期待できる。

1年次は「身体・運動科学演習 I/II」を履修する（共に1単位・必修科目）。2年次以降は「生涯スポーツ 1/2/3」を履修することができる（それぞれ1単位・選択科目）。これらの科目を通じて、楽しく安全にスポーツを行う基本的知識（ウォームアップ、クールダウン、水分補給等）や健康管理（飲酒、喫煙等）について理解し、さらに身体運動文化としてスポーツや武道を学ぶ。そして、自らの生活において主体的に運動・スポーツ習慣を確立していくための能力を身に付けていく。

d)キャリア支援科目

大学で学んだことを社会で生かしていくためには、在学中から将来を見据え、自分自身の資質・能力を向上させてゆくことが大切である。2年生後期に受講できる「キャリアデザイン」は、企業講演等を通して自らの職業観を醸成させると共に、社会と接する際に必要となる自己表現力等の能力を身につけることを目標としている。また、この科目は3年次開講科目である「学外研修」（インターンシップ）の導入科目としても位置づけられている。

【第Ⅱ群】専 門 共 通 科 目

a)共通基礎科目

現代の科学技術は自然科学の大きな体系の上に成立している。科学技術の深い内容を理解するためには、自然科学との関係を十分に知ることが重要であり、共通基礎科目ではその自然科学の基礎について勉強する。基礎・教養科の教員が責任を持って教育にあたる。具体的な科目は各学科のカリキュラムの先頭に記載してある。

微分積分, 線形代数, 物理学はどのような分野に進む人にとっても不可欠な基礎知識である。これらについて広い視野を持つことは, 各人が独自の道を切り開く上で大きな力になると信じる。単に道具として理解するのではなく, 自然現象をどのように捉え, 表現しようとしているのか, また結果としてどんな描像を得ているかを理解してもらいたいと考えている。ものごとを理解するには, 自ら手を動かし, 試してみることが肝要である。そのために講義に合わせて演習も用意されている。さらに, 化学・生物学の最近の発展は著しく, 情報分野においても分子素子やバイオコンピュータなど化学・生物学の基盤なくしては構築できないものがある。「化学及び演習」と「生物学基礎論」で, それらの基礎を意欲的に勉強してもらいたい。

また, 現代を生きていく上で不可欠となったコンピュータの基礎について学ぶ「情報処理入門」も用意してある。これをマスターしてのち, 情報学部生にふさわしい専門的知識をさらに身につけて欲しい。